

平成30年7月27日（金） 14：00～16：00
会場 長浜市民交流センター

第2回 意思決定支援研修会 （応用編）

長浜米原地域医療支援センター

本日のスケジュール 14:00~16:00

- 1、開会のあいさつ 堀川事務長（総合司会）
- 2、アドバイザーの後藤忠雄先生紹介 5分
- 3、（第1回）意思決定支援研修会の振り返り（今井） 10分
- 4、自己紹介とアイスブレイク ペーパーチェーンを繋ごう！ 15分
- 5、ロールプレイの趣旨と進め方と実際（今井） 60分
- 6、全体発表 10分
- 7、後藤先生からアドバイス 20分
- 8、閉会 アンケート記入後解散

開会のあいさつ

湖北医師会事務長

長浜米原地域医療支援センターコーディネーター

堀川 佳孝氏

アドバイザー後藤忠雄先生の紹介

岐阜県：県北西部地域医療センター長
国保白鳥病院長

後藤先生は、「へき地診療所を近隣の医療機関で管理する」という新たな枠組みを提案され、医師不足にあえぐ実情に一石を投じ、特定の医師の犠牲により成り立つ地域医療の在り方を変えようと挑戦されています。

また、多職種研修コーディネーター育成事業においては、検討委員会の委員長として、全国8か所のブロックで多職種連携研修会を企画・開催されました。今回、そのご縁でアドバイザーをお願いしましたが、地元の畑野秀樹先生や名田庄村の中村伸一先生と自治医大の同級生と伺い親近感を覚えました。現医療や地域医療センターの立ち上げは基より、多職種連携研修会など、多岐に渡りご活躍されています。

第1回意思決定支援研修会の振り返り

ケアマネジャーに対する意識調査結果の感想

現状と課題

- ★医療相談に対する相談先がわからない
- ★ケアマネ個人の考え方に相違
(年齢や基礎職種、体験、価値観が違う)
- ★看取りを意識する時期がわからない
- ★本人の意思を確認するタイミングがわからない
- ★どう意思決定を切り出すのか？
- ★関わりの最初も聞きにくい但最终期はリアルすぎて...
- ★終末期の相談があっても医療職でないため
予後予測ができず自信がない
- ★今後の経過がイメージできずアドバイスできない
- ★訪問看護師の話についていけず、苦手

療養者/家族

- ・いつまでも医療に依存的
- ・今後への不安

医療

- ・専門用語が通じない

介護

- ・医療相談が多い
- ・医療職への苦手意識や遠慮
- ・知識不足

人生の最終段階における医療・ケア

今後の望まれる意思決定支援

- ★意思決定のタイミングは早期から
- ★日常の会話から投げかけと読み取り
- ★タイミングの機会を逃さない
- ★在宅看取りはチームで
- ★情報連携は積極的な情報発信から

療養者/家族

- ・早い段階からエンディングノートを普及

十分な病状説明と治療選択肢を提供

気持ちは変わる事を前提に寄り添い、繰り返し確認を！

納得
信頼
安心
共有

医療

介護

- ・多職種への理解

チーム連携

- ・意見交換の場作り
- ・医療知識の習得

お互いに遠慮なく踏み込んだ連携！！

「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」とは？

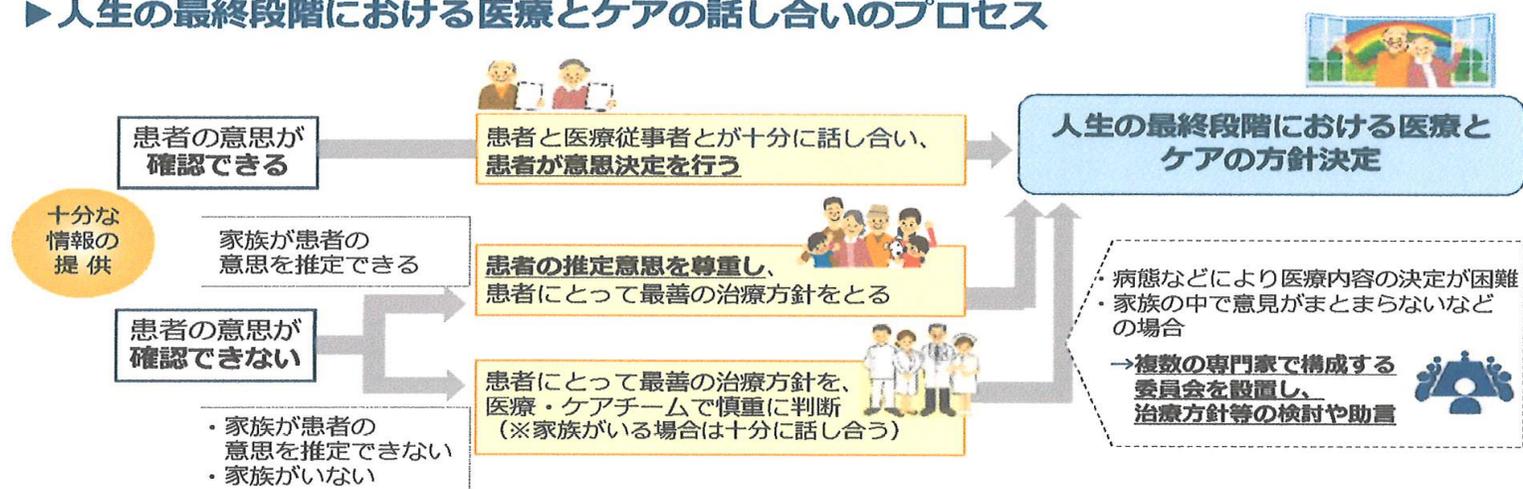
人生の最終段階を迎えた患者や家族と、医師をはじめとする医療従事者が、患者にとって最善の医療とケアを作り上げるためのプロセスを示すガイドラインです。

▶ 人生の最終段階における医療とケアのあり方

- ① 医師など医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされ、それに基づいて患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人による決定を基本とした上で、人生の最終段階における医療を進めることが最も重要な原則である。
- ② 「人生の最終段階における医療」における医療行為の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為の中止などは、多専門職種 of 医療従事者から構成される医療・ケアチームによって、医学的妥当性と適切性を基に慎重に判断すべきである。
- ③ 医療・ケアチームにより可能な限り痛みやその他の不快な症状を十分に緩和し、患者や家族の精神的・社会的な援助も含めた総合的な医療とケアを行うことが必要である。

ガイドラインの改正では、話し合いのメンバーに介護職も追加されました。また家族等の中には、今後、単身世帯が増えることを想定し、本人が信頼を寄せ人生の最終段階を支える存在としてより範囲の広い人も含みます。→親しい友人

▶ 人生の最終段階における医療とケアの話し合いのプロセス



◆ 人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン、ガイドライン（解説編）、及びこのリーフレットは厚生労働省のホームページに掲載しています。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/saisyuu_iryuu/index.html

自己紹介とアイスブレイク

- まず、お手元の名札にファーストネームをひらがなで記入し、胸に貼ってください 「〇〇さん」で呼び合しましょう
- アイスブレイクの仕切り役（司会）は一番若いと思われる方（自称／他称）を選んでください
- 司会者から、時計回りで名前・職種・所属を発表しましょう
- 今回は、ゲーム形式を取り入れてアイスブレイクを行います。

★☆☆ペーパーチェーンを作ろう☆☆★

- 新聞紙1日分・ハサミ3本・のり3個以外は机の下に置いてください
- 細く切った新聞紙を繋いでいき（輪繋ぎ）2分間で、グループで何個、連続で繋げられたかを競うチーム対抗ゲームです
- 最初に作戦会議を1分間、その後にゲームを開始（2分間）し、繋いだ輪が一番多かったグループが優勝です
- 優勝チームに豪華景品を進呈します
- 各チームから頑張った点について発表
（発表者：司会者の右の方）



本研修の趣旨と目標

ロールプレイでは、生命の危機にある疾患に直面している患者さんに対して、本人の意思を基本とした上で人生の最終段階の医療とケアについて話し合います。そこで、関係者は医学的妥当性と適切性を慎重に判断し、最善の方向性が決定できるように、また人生の最終段階においては、本人が納得した最期を迎えられる事を目標に話し合います。

A氏 年齢 89歳 男性

病名 高血圧 糖尿病性腎症（第4期）蛋白尿 下肢浮腫 難聴

経過 下肢浮腫が著明になり、近医からB病院に紹介されるが、腎機能悪化で透析の前段階と診断。シャント造設を勧められるが本人は拒否。透析を希望しないのなら、病院でできる治療はなく退院を勧められた。

ADL 入院中に下肢筋力低下と浮腫で歩行器歩行も不安定な状況。家族は、妻（83歳）と長男（50歳）の3人暮らし。市外に在住する次女は孫の世話で忙しい。近所で暮らす姪（ディサービスの管理者）が相談役。長年、透析療法を受けていた長女は昨年他界した。

介護保険サービス （要支援2）

入院前は2本杖で何とか歩行可能

住宅改修と福祉用具、訪問看護（1回/月）を利用

事例紹介

ロールプレイの進め方

<場面設定>

患者さんにご家族の意向が一致せず、今後の方向性を
(治療方針など) すり合わせる為の中間カンファレンス

<ロールプレイで話し合うテーマ>

透析を拒否し退院を希望される本人にご家族に対する納得のいく
意思決定支援について話し合ってください

<カンファレンス参加者>

患者A氏・妻・長男・次女・姪・ケアマネジャー・訪問看護師
病棟看護師・観察者(または長男)
病棟主治医は今回欠席。各シナリオに病状説明を添付

●透析を拒否し、退院を希望される本人とご家族に対する 納得のいく意思決定支援について

(1) 各テーブルに置いたシナリオを順番に取ってください

(医師は欠席のため書面での病状説明用紙を配布)

シナリオはキャラクター設定のみで、セリフは自由に発言してください
不明な点はアドリブで演じてください

(2) キャラクター設定の役作り (3分)

(3) ロールプレイ (20分) 司会：ケアマネジャー役 書記：病棟看護師役

(4) フィードバック (25分)

(ア) 観察者 (または長男役) から評価 (5分)

チェックリスト参照 (終了後配布)

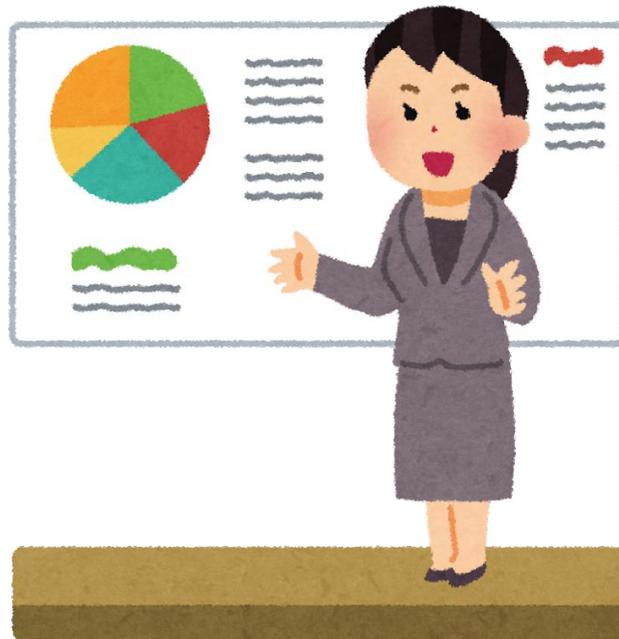
(イ) グループ内でテーマについて意見交換し、
ポスター作成 (20分)

チームのひと言

※感じたことを「ひと言」の周りに付箋または直接記入

●グループワーク終了後、全体共有（10分）

発表者は観察者（または長男役）



後藤忠雄先生から
アドバイス 20分



本日は、長時間に渡りお疲れ様でした。

アンケートにご協力をお願いします。

<今後の研修予定>

★多職種連携研修会（長浜赤十字病院共催）

●日時：9月13日（木）16：00～18：00

会場：長浜赤十字病院 2号館5階

テーマ：人生の最終段階における救急医療について

講師：中村誠昌先生・湖北消防・かすたねっと（民間救急車）

★介護職・在宅医療に関わる人対象研修会

●日時：10月18日（木）18：00～19：30

会場：メディサポ2階

テーマ：栄養に関すること（仮）

講師：東森佳子氏

●日時：11月未定

会場：メディサポ2階

テーマ：薬剤に関すること（仮）

講師：湖北薬剤師会

★地域医療福祉フォーラム

●日時：平成31年1月12日（土）13：00～16：00

会場：長浜文化芸術会館

テーマ：看取りの経験を語る会

講師：長尾和宏先生

